※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	古典芸能（狂言・仕舞）	単位数	３単位のうちの２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

狂言独特の言葉の抑揚や型の習得を通して、到達目標に達する。
仕舞については、女物・男物・修羅等違う種類の曲を理解し体現できるようになり、６５０年前の精神や風土を垣間見れたら良い。
謡曲についても、難易度は高いが発声を習得したい。

2　学習の到達目標

（１）　日本の古典芸能の稽古方法の「口移し」を体験し、実践する中で古典芸能の知識を習得する。
（２）　台詞の中の間や緩急など、観客との空気を共有することを体験し様々な判断と工夫が存在することを学ぶ。
（３）　本来の狂言の練習は、台本すら用いないこともある。主体的に学ぶ態度を育成し、自らが演じられるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	狂言や仕舞の基礎知識・技能を習得し実践することで日本文化の基礎を理解する態度を身に付ける。	台詞のタイミングや謡の間を瞬間的に判断したり細かな型の見え方などを試行錯誤し表現できる力を身に付ける。	地道な型の動きや台詞まわしを何度も繰り返す努力に向かう力を養い、共演す他者を思いやる力を身に付けようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	狂言	礼儀作法 狂言の基礎 狂言の基本動作	a:狂言の基礎的な礼儀作法、持道具（扇）登場人物の演じ分けを実演することができる。 b:師匠の振りを見て、真似をして表現することができる。 c:礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察
		狂言作品の習得 『仏師』	a:台詞、所作を実演する。 b:物語の背景を判断し適切な所作を工夫する c:試行錯誤を繰り返し意欲的に取り組もうとしている。	実技テスト	授業観察	授業観察
後期	仕舞	礼儀作法 仕舞の基礎 仕舞の基本動作	a:仕舞の基礎的な礼儀作法、持道具（扇）登場人物の演じ分けを実演することができる。 b:師匠の振りを見て、真似をして表現することができる。 c:礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察
		仕舞の実際 『紅葉狩』 『屋島』 『春日龍神』 『小袖曽我』	a:所作を実演する。 b:物語の背景を判断し適切な所作に反映させる c:試行錯誤を繰り返し意欲的に取り組もうとしている。	実技テスト	授業観察	授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度